

Choho

長崎大学広報誌
[チヨ-ホ-]

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Spring

Vol.
51

特集 **新しい** **新生!** **再生!**
長崎大学へ



Choho

長崎大学広報誌「チヨ-ホ-」 Vol.51 2015年4月1日発行 長崎大学ホームページ <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

学びの
森の
風景

Scene 13



満開になると圧倒的な存在感を誇る片淵キャンパスの桜。特にグラウンドの桜は空をおおようにびっしりと咲き、その下には門柱があります。これは、経済学部の前身、明治38年(1905)創立の長崎高等商業学校時代のもの。高商時代の名残りは、片淵キャンパスのあちこちにありますが、登録文化財となっている瓊林会館やレンガ倉庫、拱橋と比べると、門柱はあまり知られていません。桜は後になって植えられ、今では門柱と一体化するほど成長し、この光景もお馴染みになりました。撮影/沖田夏樹(経済学部 職員)

新生!

再生!

ナニコレ新しい!!

特集

新しい長崎大学へ



よりよい学びの環境を目指して常に整備を進めている長崎大学。

平成27年度のスタートを機に、

昨年からの新築・改築を一挙紹介。

キャンパス外の長崎大学施設もご案内します。



施設担当から

まずは耐震化。そして 独立した研究スペース

長崎大学の施設整備事業は、マスタープランに沿って進められています。施設担当の山下敬彦副学長のお話です。

「二〇一〇年から三年かけて、キャンパスごとのマスタープランをたてました。建物の耐震化が最優先ですが、これに加え、教育や研究の機能を向上させるための整備が進んでいます。国立大学として百年使えるキャンパスという考え方を基本とし、長期計画のなかで統一感をもたせようとしています」。

長崎大学の場合、町なかにあつて敷地も限られていることもあり、建替えは容易ではありません。しかし、学生の学びの向上や研究の進展を第一に考え、ポイントを押さえた環境整備が着々と進んでいます。

「例えば、昨年度から歯学部本館を医歯薬学総合研究科棟にする改築を行っていますが、現在、増改築する建物の二十パーセントはオープンラボに当てています。企業との共同研究やプロジェクトでは知的財産の守秘義務の関係上、独立した研究スペースが必要とされているからです。また、附属図書館では蔵書の拡充はもちろん、学生の学習スペースの確保など、部局のニーズを汲みながら設計に反映させています」。

学内全体でいえば、グループワークしやすいオープンスペース、リフレッシュルームやトイレなどの共有スペースも増えています。



山下敬彦 副学長

※オープンラボ／研究者やチーム単位でスペースや部屋を借り、賃料を支払って使うスタイル。機材もすべて持ち込みとなります。

学長室
だより

ゆとり教育世代の 自己表現力

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の初代センター長梅林宏道博士が、この3月末で退任されました。設置後3年。研究活動、人材育成、地域貢献とRECNAの活躍は目覚ましく、ヒバク大学に設置された核兵器廃絶に特化した世界初の研究組織として、地域はもちろん国連をはじめ平和を希求する世界の関連組織の間にも完全に定着しました。この間の梅林センター長のリーダーシップに心から敬意を表します。この3年間の活動を基盤として、RECNAの活動は今後、核兵器廃絶を求める世界の潮流の中で、さらに大きな影響力を発揮することになるでしょう。



去る1月、このRECNAとNHKとの共同プロジェクトで、評論家の立花隆さんを迎えて本学の学生を中心とする長崎の学生たちとのワークショップが開催されました。先ず立花さんが「被爆者なき時代に向けて」と題した講義を行い、その中での問題提起を受けた学生たちがグループに分かれて議論し、その結果を発表し合うという形で進化した

そうです。立花さんは原爆投下の5年前に長崎医科大学病院で産声を上げた生い立ちから、核兵器問題に対する思い入れは強く、今回のテーマには、核兵器廃絶の実現に向けての問いかけとともに、被爆後70年が経過しヒバクシャがいなくなる中で被ばく体験をどのように継承していったらいいのかとい

う、彼の問題意識が込められています。立花さんと学生たちとの議論は、大変盛り上がったそうです。

立花さんは、ある雑誌に掲載されたエッセーの中で、このワークショップの印象を記されていますが、ゆとり教育世代の彼らに対する、次のような言葉で結ば

れています。「自分たちなりの意見をまとめて発表するというになると、臆せずにもを言い、なかなかの自己表現力をもっている。そういう姿を見ていると、日本にも新しい若い世代が着実に育ちつつあるなと思えて嬉しかった。」

立花さんにそのような感慨を抱かせた学生諸君を、とても頼もしく、そして誇りに思います。

片峰 茂

CONTENTS

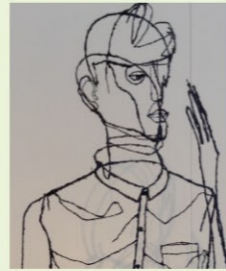
長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.51

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

| | | | |
|-------------|-------------------|----|--|
| 学長室だより | ゆとり教育世代の自己表現力 | 1 | 表紙のはなし |
| 特集 | 新生! 再生! 新しい長崎大学へ | 2 | 坂本キャンパスの附属図書館医学分館は、昨年5月にリニューアルしました。耐震化構造にするのと同時に館内も整備し、2階の南側窓沿いにカウンター席が新設され、明るくなりました。春休みにもかかわらず撮影に協力してくれたのは濱観月さん(左)と、澤田彩佳さん。 |
| 長崎大学のいま! | 医学部 | 11 | |
| 大学の研究最前線 | 川内村復興推進拠点で住民と向き合う | 15 | |
| 大学はわたしの仕事場 | 王 維 | 17 | |
| グラバー園譜 | タカノハダイ | 19 | |
| Information | 公開講座 | 21 | |
| | 長崎大学「通」クイズ | 22 | |
| | 編集後記 | 22 | |



木の質感を生かした明るい空間で、客席から見やすいようステージは少し高めです。



美術専攻の寺内亜衣さんの「Rough Sketch」。ワイヤーで作り、影の面白さを活かしました。

文教キャンパス

ART AND TECH EXHIBITION LAB

爽創館

教育学部美術・技術棟1階
展示情報・教育学部ホームページ
<http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/>

**緑のなかの芸術空間で
学生のアートにふれる**
文教キャンパスの南側は緑豊かな木立が続き、散策にもぴったり。このエリアに、音楽ホール「創楽堂」に続いて昨年オープンしたのが、このギャラリー。美術専攻の佐藤敬助教授のお話です。「二十七平方メートルと小ぶりですが、定期的に学生や教員の作品を展示しています。今後は教育学部全体の研究発表、附属中学の生徒の作品展示も考えています」。発表の場が増えたことで、学生のモチベーションアップにもつながっています。



先生方の作品展の様子。

開館時間は企画により異なりますが、窓が大きく照明もあるので、外からでも鑑賞できます。



文教キャンパス

文教 スカイホール

グローバル教育・学生支援棟4階
座席数262席
利用は学生、大学関係者に限る(共催含む)
学生支援課
TEL.095-819-2071

モニター2台、大型ディスプレイ4台など最新設備も完備。かなり先まで事前予約ができます。

使い勝手のよい 中規模ホール

平成二十五年秋に本格稼働し始めた新しいグローバル教育・学生支援棟。その四階に文教スカイホールがあります。文教キャンパスに国際シンポジウムの開催も可能な機能性の高いホールを、というニーズに応じてきた中規模ホールです。現在、学生や教職員がほぼ毎日のように利用しています。昨年は「新日中友好21世紀委員会」の意見交換会も行われました。講義はもちろんのこと、学会、シンポジウム、研究発表のほか、学生サークルの練習にも活用されています。

共有空間

学生生活を快適にする
空間と文化施設

文教キャンパス

生協文教食堂

営業時間/8:15~19:45
(土曜・春・夏季、年末年始は変動あり)
長崎大学生協ホームページ
<http://kyushu.seikyoku.ne.jp/nu-coop/index.html>

**明るい席が二五〇席増！
ランチタイムの大混雑も緩和**

文教キャンパスの生協食堂といえば、お昼は行列必至、席確保もままならない状況が当たり前でした。そこで「席を増やして」という学生アンケートの声に応える形で昨年東側を増築し、二五〇席を増やし全体で一七二二席に。カウンター席も作り、一人でも気兼ねなく利用できるようになりました。また、バイキングコーナーを設置し、レジカウンターも増やしたことで昼時の混雑はだいぶ緩和されました。水浦龍夫副店長によれば、九州内の大学と連携した共通メニューのほか、独自展開のオリジナルメニューもあり、他大からの視察も多いのだそうです。「高校の先生や受験生の保護者からも好評をいただきました。食事をするだけでなく、ランチタイム以外ならば勉強にも使ってもらえます。陽の当たる席でリフレッシュできますよ。」



食事だけでなく勉強もここでできます。スイーツも充実しており、カフェ代わりに使うのもOK。



外にあったウッドデッキを増築部分の屋上にあげて、木々の緑が気持ちのよいテラスも誕生。



煮物や焼き物など「おふくろの味」メニューを意識したバイキングコーナー。



陽光の入る大きな窓を配した空間。カウンター席や2人テーブルもあり。

文教キャンパス

正門ロータリー



歩道の表示は、留学生にもわかりやすいようピクトサインを用いています。



人と車をブロックの色で分け、 歩行者優先のキャンパスが実現

文教キャンパスの正門を入ると目につく色とりどりのブロック。歩道と車の動線をしっかりと分けて歩行者をキャンパスの奥へと誘導しており、ぐっと歩きやすくなりました。これは、キャンパスマスタープランに基づく正門と東門をつなぐ軸線の環境整備の一環で、歩行者の安全確保が目的です。約三万五千個のインターlockingブロックは、歩道部分、車道と歩道が交差する部分などで色使いを変えています。

共有空間



ヨーロッパ最古の印刷史を誇るオランダの書籍だけに装丁も凝ってますね!

二年前にリニューアルした附属図書館中央図書館。その二階の貴重書閲覧室内に昨年五月にオープンしたのが日蘭文庫コアコレクション。ここには、日蘭交流関係図書を中心にオランダ語で書かれた本が約一八〇〇冊収められています。日蘭文庫は、オランダ商館関係文書のマイクロフィルムやオランダ大使であったフリース氏のコレクションも含まれます。実は、東京の日蘭学会が解散するにあたり、三年前にその蔵書を譲り受けたもので、オランダの図書がここまであるのは日本でもトップクラス。多文化社会学部オランダ特別コースの学生、オランダ人留学生だけでなく、広く日蘭交流の研究にも役立ちます。貴重書閲覧室は通常施設されており、文庫の閲覧はカウンターでの申込みが必要です。



百科事典、フェルメールなどの美術書、航海日誌からペーパーバックまで。

オランダ語の書籍が一八〇〇冊

文教キャンパス

附属図書館 日蘭文庫

長崎市文教町1-14
長崎附属図書館中央館
TEL.095-819-2200



学びと研究

学びやすい環境と
先端研究の推進

スキルスラボには、歯を削る処置などが確認できる最新機器が11台も!

大学病院の南に隣接する歯学部棟本館は、医歯薬学の総合的な機能を持った学習と研究の施設棟にリニューアル中です。四〜六階は主に歯学部、七階は主に薬学部、八階はオープンラボが先行して整備されています。歯学部臨床教育学の角忠輝教授のお話です。「歯学部の実習は、内容によって使う器具や設備が違いため、これまで学生は実習内容により、いくつものフロアを行き来していました。そこで学生の利便性を考え、今回の改修で実習室を一カ所に集約させました。実習機器は高価なので、そう頻繁に入れ替えられませんが、水平状態で実習できる歯科用実習機や、処置の様子がモニター画面で確認できるシミュレータなど、最新機器を揃えています。教員の手を映すカメラと複数のモニターも設置したので、より良い環境での学びと実習が実現しています」。



撮影時は春休みで学生がおらず、モデルは歯学部を卒業した研修医のみなさんにご協力いただきました。みんな口ぐちに「いいなあ! 最新設備で新入生がうらやましい」。

歯学部を中心とする実習室と 医歯薬学総合研究科の研究室



坂本キャンパス

歯学部棟本館

長崎大学病院隣接



リフレッシュコーナーのある1階、勉強に集中できる2階と機能を分けています。



リフレッシュコーナーでランチも可。



個別にパーテーションで区切った閲覧室。書棚には医療系書籍が診療科別にずらり。

先輩が後輩に教える姿も

中央館に続いて昨年五月にリニューアルした坂本キャンパスの医学分館。以前は書庫からあふれた本棚の間に席がある状態だったのが、書庫を倍増させて蔵書をスッキリ収納した結果、閲覧スペースが広くなりました。閲覧室には眺めのよいカウンター席も登場(今号の表紙はこちら)。部活動が盛んな医学部では、先輩が後輩の勉強をみる伝統があり、かつてはパソコンやコピー機の周りで立ったまま相談する学生もいました。しかし今では一階に会話ができるラーニングコモンズができ、大いに活用されています。二階の近代医学資料展示室もレイアウトと展示物の一部が変わり、被爆時にガラスの破片で傷ついた書籍なども展示されています。

坂本キャンパス

附属図書館 医学分館

長崎市坂本1-12-4
附属図書館医学分館
TEL.095-819-7013

学内環境の改善はアンケートがカギ

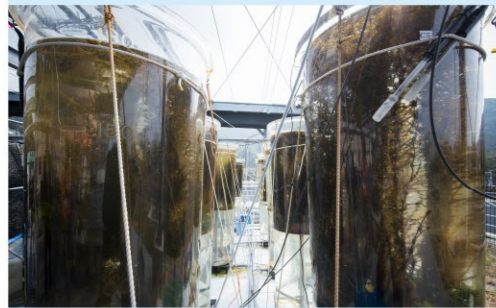
長崎大学では学生の身の回りの環境整備をどのように行っているのでしょうか。学生担当の堀内伊吹副学長にお聞きしました。

「長崎大学では、学生を対象にした生活調査を二年に一度行っており、そこで出た要望や意見が学内環境を改善する大きなカギになります。生協食堂が広くなったり、図書館の開館時間を延長したりという改善も学生の意見がきっかけでした。今年度はサークルセンターの改修や懸案の音楽練習室など、いくつかの計画が動きそうです。せっかく何年も通うのだから、学業だけでなく日常生活も充実してほしい。我々もそのためのバックアップは惜しみません。学生の皆さんは大学の主役。自治や自主の精神で活動してほしいですね」。

学生担当から



堀内伊吹 副学長



二酸化炭素の濃度を変え、海藻と海洋動物を観察する水槽。 海面生質に付む征矢野センター長。

長崎市多良町

環東シナ海 環境資源研究 センター新館

長崎市多良町1551
環東シナ海環境資源研究センター
TEL.095-840-1881
ホームページ
<http://www-mri.fish.nagasaki-u.ac.jp>



国や県、海外の大学とも 手をつなぎ海洋研究を進める

新長崎漁港を臨む長崎市郊外の岸壁に大きな三つの施設が並んでいます。水産総合研究センター西海区水産研究所と長崎県総合水産試験場に挟まれるように真ん中にあるのが長崎大学環東シナ海環境資源研究センターで、水産・環境科学総合研究科の附属施設です。征矢野清センター長にお話を聞きました。

「国と県、大学の臨海施設が一カ所に集中しているのは全国でも長崎だけ。共同研究や実験機材の貸し借り、人的交流なども盛んで、学生にとっても将来のビジョンを描きやすい環境です。センターでは、西海区水産研究所や総合水産試験場ではできない基礎研究を中心に行っています。」
ドライ実験室や魚の飼育施設のある本館に加え、昨年新館ができたこ



目の前の岸壁には長崎丸と鶴洋丸の2艘の練習船が横付けできる抜群の立地。

とで工作室、解析室、セミナー室なども整いました。国内の大学のなかでダントツの充実度です。「海洋資源や環境のフィールド研究は、国境を越えて進めなければ意味がありません。そこで東シナ海を囲む日本（長崎、沖縄）、中国、韓国、台湾の五大学からなる東シナ海海洋学水産科学教育研究コンソーシアムの研究拠点としても機能しています。」
昨年八月からは国の全国共同利用施設にも指定されたセンター。多くの研究者から熱い視線を集めています。



同時通訳端末を備える会議室を有し国際会議も可能です。

1階の会議室はプロジェクターや大型スクリーンの操作をパネルで集中管理。

坂本キャンパスの最奥部 グローバルヘルスの聖地誕生

長崎市坂本1-12-4
国際連携研究戦略本部
TEL.095-819-7008



熱帯医学研究所の隣に二月に完成したこの棟は、熱帯医学、国際保健、ヘルスイノベーションをキーワードとするグローバルヘルス領域の教育・研究拠点です。会議室や講義室、オープンラボのスペースも広く設けられ、熱帯医学研究所とも渡り廊下で結ばれています。浦上天主堂が見渡せる抜群の立地で、最上階にはラウンジもあります。
今年度十月スタートの熱帯医学・グローバルヘルス研究科(関連記事・チャイロ50号P7)や、世界の保健医療でリーダーとなる人材を育成する「リーディング大学院」もこの棟での学びが中心です。グローバルヘルスに関わる学生達が交流しな



がら学べるよう、共有の自習スペースに学生個人用の書架を組み合わせて配置しました。これは新しい取り組みです。海外の機関等とも人的交流があるため、教員も学生も多国籍。そこでお祈りスペースを確保するなど、多文化への配慮も行っています。
ここからグローバルヘルス領域で世界的に活躍できる人材が巣立っていきます。



内外の飼育水槽には、環境影響実験に用いるアカハタやタイラギが。観察は24時間体制のため宿舎も完備。



最上階のラウンジは明るい安らぎの空間。

各教員の研究室と通路の間には秘書のデスクやコピーなど共有機器のスペースを設けた新スタイル。

JICAや国立国際医療研究センターの協力のもと、留学生も含めた学生に国際保健のセミナーも開催。



2016年に完成予定
新中央診療棟

屋上にはヘリポートを装備し、離島やへき地の緊急医療や移植医療にも役立ちます。

地域貢献

機能を向上する
大学病院

県内初のダヴィンチ。現在の保険適用は前立腺がんのみですが、今後は他の領域にも保険適用が広がる可能性があり、ダヴィンチの活躍が期待されています。



3D画像を見ながら多関節で360°動く鉗子で精密な手術を行います。

平成二十八年完成予定の新しい中央診療棟は、十五の手術室が十九室に増え、先行して導入した内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチSii」や、血管造影装置を入れたハイブリッド手術室もお目見えします。

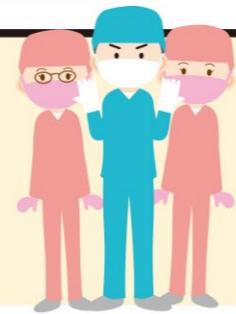
十年計画で進む長崎大学病院の改修ですが、現在、最後の中央診療棟が工事中です。長崎県の医療の中心である大学病院では、工事中も治療を中断することはできません。古い棟を解体する際は、振動を最小限に抑えられるダイヤモンドワイヤソーを使用したので、心臓血管外科や耳鼻科などの手術を続けることができました。

県内初の3D手術ロボットも活躍できる最新手術室がずらり

長崎大学病院

中央診療棟

長崎市坂本1-7-1
問病院企画課
TEL.095-819-7200



その場に行って初めて見えてくることを受け止め、ニーズを探る実習体験。

上／教育学部が川内村小学校で行う「復興子ども教室」の様子。左／村の住民と折田助教。



海外からの研究者を受け入れる最前線の研究拠点としても期待されています。先進的な取り組みで周囲の自治体からもモデルケースとされている川内村。復興の一端を長崎大学が下支えしていく仕組みが構築されています。

東日本大震災以降、長崎大学は特に福島県の復興に向けた動きを支援しています。なかでも双葉郡川内村と強力に連携しており、平成二十五年四月には村内の公民館の一面に「長崎大学川内村復興推進拠点」を設置できました。この拠点を中心に線量測定や住民の健康相談を実施しています（関連記事P15）。常駐する医歯薬学総合研究科の折田真紀子助教のお話です。「村には避難指示解除準備区域がありました。が、昨年十月に規制解除となりました。とはいえ、住民の「本当に大丈夫なのか」という声に応える形で線量測定を継続しています。また、長崎大学の学生の実習やサマープログラムも活発に行われています。今後は他大学の学生のリスクコミュニケーション実習や、日本はもとより海外からの研究者を受け入れる最前線の研究拠点としても期待されています。先進的な取り組みで周囲の自治体からもモデルケースとされている川内村。復興の一端を長崎大学が下支えしていく仕組みが構築されています。

福島県川内村

長崎大学川内村復興推進拠点

福島県双葉郡川内村
大字上川内字小山15-1



復興に向けて共に歩む
最前線の研究拠点

活動支援

就職活動、研究活動の
東京拠点

就活や研究活動の東京拠点として使い勝手よし！ 大学関係者は会議室も借りられます。



東京都港区西新橋

長崎大学東京事務所

東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町503
TEL.03-6257-1940
ホームページ
<http://www.nagasaki-u-tokyo.jp/>

入試情報もここで入手可

長崎大学は東京にも事務所を設置しています。昨年、九段下から港区西新橋に移転し、地下鉄の最寄駅から二分という好立地になりました。ここでは主に在校生への就職活動や教職員の研究活動の支援を行っています。アクセシビリティの良さから就活の面接準備やエントリーシートの作成に利用する学生もいます。そのほか、卒業生の交流の場、受験生への大学情報や企業への研究情報の提供といった機能も併せ持ち、大学案内や入試関連情報冊子、広報誌など一連の広報物も入手できます。※来所の場合は事前連絡が必要です。



外国人留学生と混住することで文化の壁を乗り越え、地域とも共生する新しい寮。



留学生寮のある国際交流会館本館から徒歩5分。地域のイベントに参加するなど住民との交流も積極的に行います。

日常生活から
多文化の
学生寮がついに誕生

この春からオープンする国際学寮ホルテンシアは、外国人留学生と日常生活を共にすることで言葉の壁をのりこえ、多文化交流のなかで国際感覚を養うことを目的とするもので、国立大学では先進的な取り組みとされています。平成二十七年入学の多文化社会学部の一年生全員が一年間入寮。ユニットは四名でルームシェアし、ユニットに一人以上留学生が入居します。

長崎市白鳥町

国際学寮ホルテンシア

長崎市白鳥町8-1
学生支援センター
(学生支援課生活支援班)
TEL.095-819-2103

まもなく創立一六〇年
新たな個性を創出

今年で創立一五八年目の長崎大学医学部は、西洋医学発祥の地として歴史と伝統を誇ってききました。その医学部の最新情報について、まず今号では医学部、次号で保健学科と順に取り上げていきます。

下川功医学部長にお話を聞きました。

「医学部といえば、これまで常に熱帯医学と原爆後障害医療が特徴として語られていましたが、二つは研究所としてすでに独立しています。そこで、新たな個性を創出していく次の段階に入っています。まもなく創立一六〇年を迎えるにあたり、医歯薬学総合研究科を中心に、生命科学の教育基盤を整備するべく必要な施設拡充を行っています。プロジェクトではどうでしょう。」

長崎大学のいま!
医学部

生命科学の
教育基盤を整備し
未来志向の医療人を育てる



下川 功

医学部長
しらかわいさお
昭和三十三年長崎生まれ。一九八二年（昭和五十七年）長崎大学医学部卒業。卒業後、病理学を専攻、米国留学中にカロリナー制限による抗老化メカニズムの研究に携わり、帰国後も基礎老化研究を継続している。平成二十五年四月より医学部長。

「大きなものでは平成二十五年から動きだした文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業でしょう。全国の大学から多くの応募があったのですが、長崎大学から申請したプロジェクトが二本も採択され、しっかりと予算を獲得しました。二本通ったのは、東京大学、京都大学、九州大学、千葉大学と長崎大学だけです。採択された事業の一つは「（医工の絆）ハイブリッド医療人養成コース」。3Dプリンターを用いながら先端医療機器を開発するなど、医学と工学のハイブリッド的な視点でものづくりマインドを育みます。もう一つは『地域の総合診療医養成コース』で、在宅医療の現場で活躍できる医療人を育成するものです。社会福祉士・介護福祉士を養成する学科を持つ長崎純心大学と連携し、チーム医療の現場で実習させることで総合診療医のセンスを磨くプログラムを実施しています」。

「はい。特に地域包括ケア教育を考えた場合、五島での医療実習が存在感を持っています。医学部では、五島をはじめとする離島での医療実習を始めてかれ

これ十年。地域医療に特化した実習はうちの大きな特色でもあります。医療データも蓄積されており、ここから新たな予防疫学の共同大学院構想も動き始めました」。

法医学や
希少疾患の研究で
世界を見すえた展開

長崎大学は法医学のジャンルでも傑出していると聞きました。「あまり知られていないのですが、昔から法医学の専門医を多く輩出しています。実績もあることから、平成二十三年に死因究明医療センターが設立されました。今、日本では法医学剖ができる法医学の専門家の育成が急務と言われています。センターでは全国規模のセミナーを

主催しながら多くの法医の卵を育ててきました。アジア各国では、このジャンルの人材育成はまだまだ立ち遅れており、海外からの研修を受け入れるナショナルセンター的な拠点整備も視野に入れています」。

医学部として次々と新しい展開を打ち出しているのですね。

「個々の研究者単位で言えば、まだまだたくさんトピックスがありますよ。プリオン病の研究で世界的にも有名な西田教授、家族性の地中海熱の研究を遺伝子レベルで行っている川上純教授もおられます。希少疾患や難病の研究は患者さんにとっても非常に重要なことですが、まれな疾患解析の成果がメジャーな病気を読み解くヒントになることもあります。また、先日は食道がん手術後の狭窄に細胞シートが効果的であること

を実証した再生医療研究の江口晋教授もメディアで大きく報道されました。大学病院内には、五・六年生や研修医のためのシミュレーションセンターなど、教育関連施設もここ数年で充実してきました。優れた医師や研究者に接しながら研究テーマを探し、技を磨く環境が整っています」。

今年是被爆七十年を迎える長崎。世界で唯一被爆を体験した医科系大学を歴史に持つ長崎大学医学部では、元学長である土山秀雄名誉教授による記念講演をはじめ、貴重な被爆資料の修復や証言集の復刻版発行などを予定しているそうです。歴史と伝統を引き継ぎながら、さまざまな専門領域を持つ研究者がこれからの社会に必要とされる医療人の育成を目指して活躍しているのです。



ノーベル賞受賞研究者で、平成25年に長崎大学で講演されたジェームズ・ワトソン博士の言葉を刻んだ記念碑が、今年2月に完成。



地域包括ケア教育センターのプログラムで純心大学の学生と共修する学生たち。

予防医学の共同大学院構想も

長 崎大学医学部の大きな特徴は、地域医療の教育に力を入れていること。長崎県五島中央病院の一面に長崎大学拠点があります。全体のコーディネーターを行うのが前田隆浩所長です。

「そもそもは平成十六年からの離島へき地医療講座が始まりました。これは長崎県と五島市による全国初の自治体からの寄付講座。当初この拠点では医学部医学科の実習が行われましたが、十九年には薬学部、その翌年には歯学部や他大学も受け入れ、今年には保健学科も共修します」。

医療分野だけでなく保健、福祉、介護分野と受け入れ先は実に多彩で、施設側の協力あってこそ貴重な実習体験です。ちなみに五島や対馬に加え、十七年度からは志岐でも医療実習が始まります。



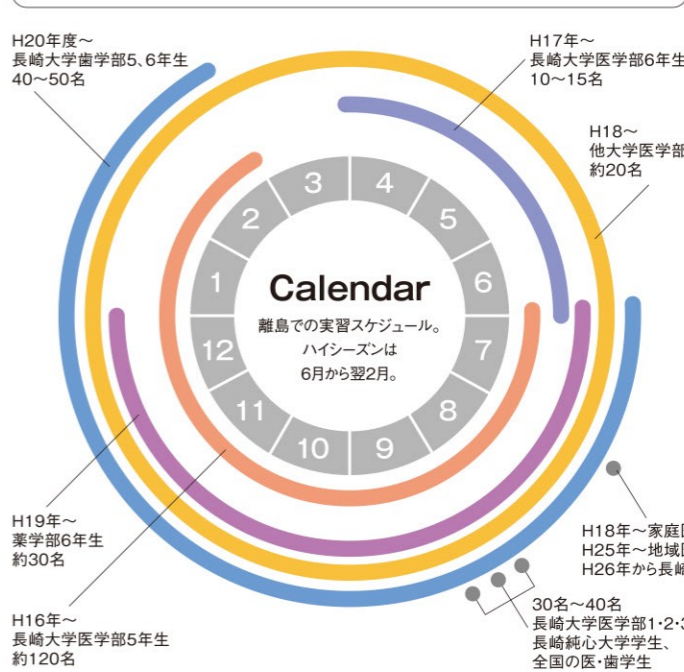
週の半分は五島という超多忙な前田所長。

「このプログラムを経験した学生が、卒業後、研修医として五島を選択することもあります。離島医療のイメージが実習で変わったでしょう」。

また、五島で長年蓄積してきた医療データを用いて新しい大学院を構想中というニュースも。永山雄二原爆後障害医療研究所長のお話です。

「これまでよりさらに進んだ先進予防医学の実践を企図しています。生活習慣を整えましょうとい

離島での学生教育年間スケジュール ～学部と大学を超えた一貫教育と共修～



うのが一次予防だとすれば、ゼロ次予防は、遺伝子や環境因子などを網羅する大規模な疫学的データを基に、情報を比較しながら個人単位の予防を指導するものです。都市型データを持つ千葉大学、へき地のデータを持つ金沢大学、そして離島のデータを持つ長崎大学の三つの大学による共同大学院です。平成二十八年度開校を目指しています」。

地域包括ケア教育センター

地 域の医療を支え、多職種連携チームのリーダーとして活躍する。そんな地域総合診療医を育てる「地域包括ケア教育センター」が平成二十五年から稼働しています。永田康浩センター長にお話を聞きました。

「これまでの一般的な医療の管轄は、手術や治療して退院するまで。しかし患者さんは退院後も療養しながら社会で生活します。そこから先は介護や福祉へ。そこから先は介護や福祉へ。術後のケアまで含めて医療のゴールであるという意識を持った責任ある医師を育てるのがセンターの目的です。高齢化社会が進み、在宅医療の比重も増えています。医師は、看護師、介護士、薬剤師、社会福祉士などの多職種を尊重し、チームをまとめる能力が絶対に必要です。この経験を早期の一年次から六年かけて段階的に身につかせます。実はこのプログラムは、現代福祉学科を持つ長崎純心大学と連携しています。介護福祉士や社会福祉士をめざす学生とともに、五島での実習やアクティブラーニングを行っています」。



外科の臨床医として経験豊富な永田先生。「医療はチーム。自身の力だけでは成果は伴いません」。

「これまでの一般的な医療の管轄は、手術や治療して退院するまで。しかし患者さんは退院後も療養しながら社会で生活します。そこから先は介護や福祉へ。術後のケアまで含めて医療のゴールであるという意識を持った責任ある医師を育てるのがセンターの目的です。高齢化社会が進み、在宅医療の比重も増えています。医師は、看護師、介護士、薬剤師、社会福祉士などの多職種を尊重し、チームをまとめる能力が絶対に必要です。この経験を早期の一年次から六年かけて段階的に身につかせます。実はこのプログラムは、現代福祉学科を持つ長崎純心大学と連携しています。介護福祉士や社会福祉士をめざす学生とともに、五島での実習やアクティブラーニングを行っています」。



多職種間のコミュニケーションは経験第一。

ちなみに今では一般的な「地域包括ケア」という言葉と概念は、広島県尾道市公立みつぎ総合病院の山口昇名誉院長が実践したのが始まりだと言われています。「寝たきり老人ゼロ作戦」と題し、外科手術後の訪問看護や在宅リハビリなどを積極的に、院内に役所の窓口まで作ってしまった行動派の山口院長。実は長崎大学医学部出身でした！センターの立ち上げの際も院長からアドバイスももらったのだそうです。先輩の志はしっかり受け継がれ、次世代の教育に活かされています」。

法医学分野にも強み

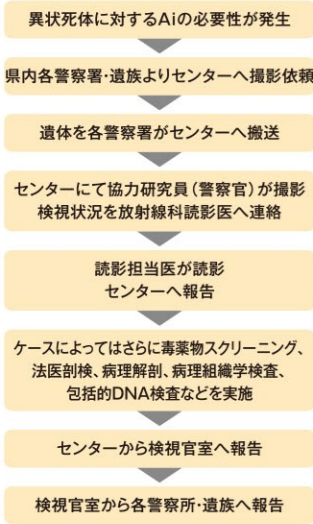
死因究明医育成センター

A iという言葉をご存じですか。「Autopsy imaging（死後画像診断）」の略で、CTやMRIなどを使った画像診断によって死因を確定する検査手法のことです。長崎県下のAiは、長崎大学医学部で行われています。法医学の池松和哉教授にお聞きしました。

「全国で年間十九万ともいわれている異状死の死因究明は、犯罪の解明にも欠かせません。しかし、解剖されるのは一割程度。なぜなら検死解剖のできる法医学の専門家は全国でも一四〇名ほどで、県によってはゼロのところもあります。人材育成は急務なのです。長崎大学は全国的にも法医学に強い名門で、平成二十三年に死因究明医育成センターが作られました」。



死因究明医育成センターのAi(死後画像診断)の流れ



配備して二十四時間体制で稼働。県警本部と連携し、法医や放射線科の読影医によるチームがAiにあたります。

「通常、外表検査で終わるので、うちでは毒薬物スクリーニングや、生化学検査を行います。法医解剖(検死解剖)では長崎大学が開発した音声入力システムを用い、剖検データは二元化、電子化するなどして精度を高めています」。

特に乳幼児の突然死の場合は、遺族の精神的な負担や遺伝的な不安などを取り除くために、病理組織学解剖や包括的DNA検査を行って診断することもあります。他県から依頼されるケースも増えました。

全国規模のセミナーや研究会も、長崎大学が中心。ここから新しく法医を目指す優秀な人材が誕生していくのです。

出島マインド+テクノロジー

医工のハイブリッド医療人

平 成二十六年からスタートした「医工の絆」ハイブリッド医療人養成コースは、医学部と工学部が連携した「相互乗り入れ型」コースです。担当の永安武教授のお話です。

「私は外科医でもありますが、手術の際に医師は医療機器に対して『この形がもう少しこうなれば…』というじれったさを常に感じています。しかしその想いはなかなか実現されません。そこで、必要とされるものを3Dプリンターで試作し、製品化にこぎつける、一連の知識と企画力を持った未来型のハイブリッド医療人を育成しようというのがこのコースです。かつて



人工肝臓や肋骨のモデルは質感もかなり再現。

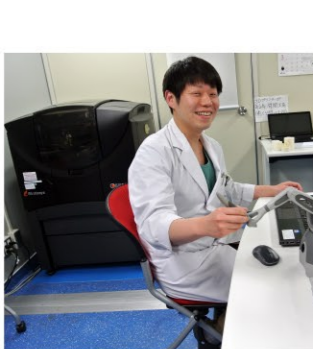
十九世紀の長崎で、シーボルトと弟子が最先端医療機器を伝承した「出島マインド」がキーワード。医学部学生には最新のモノづくり教育に関する科目が、工学部学生には医療機器体験実習などの科目が提供されます。コース修了者には博士(医学)や博士(工学)も取得可能です。

確かに、医療現場のニーズを探るセンスとテクノロジーが合体すれば、鬼に金棒ですね。

「オランダのライデン大学などにも短期留学できます。ライデンにはベンチャー企業が参入する産学連携のバイオサイエンスパークがあり、世界最先端の動きを目の当たりにできます」。

現在は3Dプリンターを操作し臓器モデルを作りながら、医療機器の試作品の開発にも着手。そのほか、スーパーコンピュータを使った創薬、在宅の患者さんと病院をインターネットで結んでやり取りするICTシステムなどの構築など、幅広い医工連携がここから動き出しています。

十九世紀の長崎で、シーボルトと弟子が最先端医療機器を伝承した「出島マインド」がキーワード。医学部学生には最新のモノづくり教育に関する科目が、工学部学生には医療機器体験実習などの科目が提供されます。コース修了者には博士(医学)や博士(工学)も取得可能です。



3Dプリンター用の臓器モデルデータを作るセンター技術員。



内視鏡のレンズを掃除する器具は実用新案も取得しました。

長崎大学は二〇一三年四月、福島県川内村に長崎大学・川内村復興推進拠点を設置しました。この拠点における住民との放射線健康リスクコミュニケーションについては、これまでにもチャイロホーで取り上げられてきました。今回は、この拠点で行われているフィールド研究についてご紹介したいと思います。

キノコマップを作り 放射性セシウムの動態を解明

本拠点におけるフィールド活動は、大きく分けば、「線量評価研究」と「リスク認知研究」の二つがあります。まず「線量評価」ですが、放射線被ばくによる健康影響を考えると、どのくらい被ばくしたか、つまり被ばく線量を評価することが最も重要です。例えば長崎の原爆被爆者では、一九四五年八月九日午前十一時二分に爆心地からどのくらい離れたところにいたのか、屋内にいたのか屋外だったのかを調査することでかなり正確な被ばく線量（詳しく言うと外部被ばく線量）がわかります。この被ばく線量をいわば「横軸」にし、がんをはじめとする種々の疾患の数や頻度を「縦軸」にしてその関連を調査することで、被

爆者における健康影響が評価されてきたのです。しかしながら、現在の福島、あるいは三十年余りに発生したチェルノブイリ原子力発電所事故の場合、住民がどのくらい被ばくしたかを評価することは長崎の原爆被爆者の場合とはかなり異なってきました。つまり、外部被ばくもさることながら、放射性物質によって汚染した食べ物の摂取や、放射性物質を含む空気を吸い込むことによる内部被ばくの要素が大きいからです。二〇一一年三月の事故発生直後、内部被ばくの原因として最も重要だったのは放射性ヨウ素でした。チェルノブイリ事故では、この放射性ヨウ素によって汚染された食物（特に牛乳を子どもが摂取することで、甲状腺という臓器が比較的高い線量の被ばく（内部被ばく）をした結果、その後小児甲状腺がんが増加したことがわかっています。一方で、福島の場合は、事故直後から食品の「暫定基準値（現在は基準値）」を設定し汚染した食品が流通しない仕組みを構築することで、住民の内部被ばくが低減化されてきました。したがって、通常市場に出回っている食品はその安全性が担保されているのですが、一部の食物、例えば野生のキノコなどには放射性セシウムが濃縮することがわかっており、現在でも福島では依然として野生のキノコから高い濃度の放射性セシウムが検出されています。

しかしその一方で、福島はいわゆる「里山文化」が継承されてきた地域で、秋になると多くの住民の方がキノコ狩りを楽しんできました。特に我々が拠点を川内村は阿武隈山系の中にあり、キノコの名産地として多くの住民がマツタケ、コウタケ、といったキノコ狩りを盛んに行っていました。

放射線や健康影響に関する 二極化している 住民意識

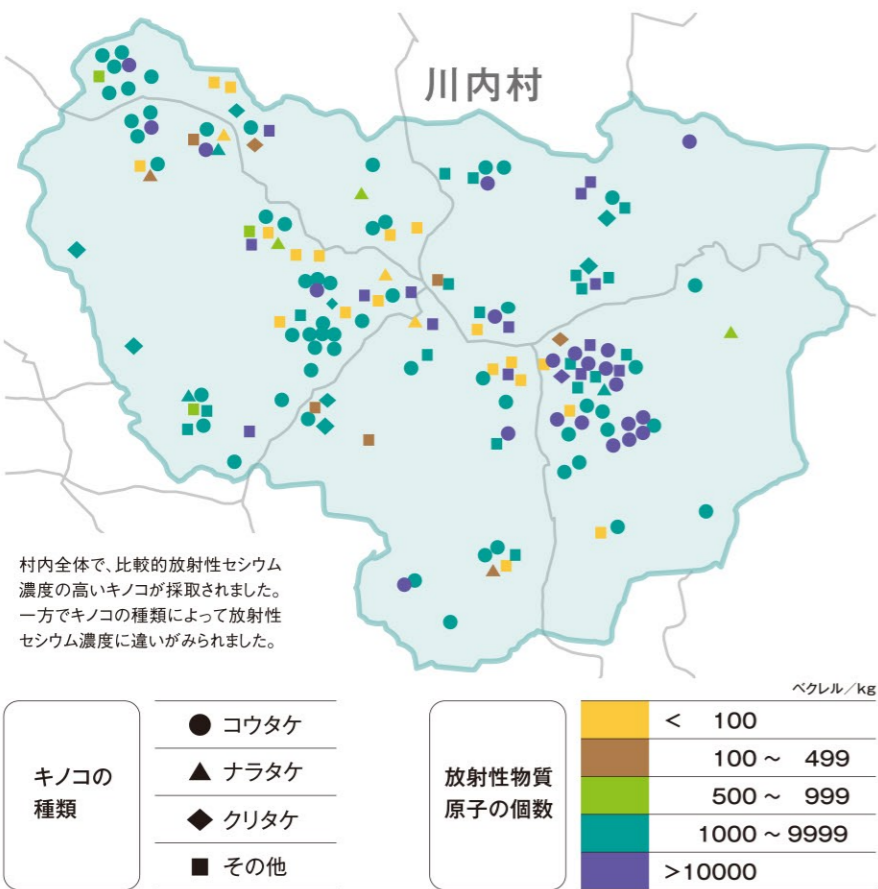
長崎大学・川内村復興推進拠点は、このような放射性物質の測定結果をもとにしたリスクコミュニケーション活動を進めてきたわけですが、その一方、福島県における住民の放射線と健康影響に関するリスクに対する認識（リスク認知）は、いまや「二

極化」していることがわかってきました。最近の我々の調査では、四年前の福島第一原子力発電所事故による放射線被ばくで、半数以上の住民が「子どもへの健康影響がみられるだろう」と答え、半数近くの住民が「遺伝的影響があるだろう」と回答しています。特に問題なのが、年間一ミリシーベルトという、平常時の放射線防護（放射線の被ばくをできるだけ低くすることで、健康を守る）の基準を超える被ばくをすると、がんになってしまうと考えている住民の方が未だに大勢いることです。これまで、福島県の県民健康調査をはじめとする多くの調査において、事故直後からの避難や、食品管理によって、福島県民の被ばく線量は極めて限られていることがわかっています。さらには長崎や広島の高年層にわたる疫学調査から、ヒトにおいて放射線被ばくの遺伝的影響は証明されていません。にもかかわらず、多くの住民がこのように回答していることは、我々科学者がもう一度真摯に住民と向き合う必要があることを示しています。

川内村 復興推進拠点で 住民と向き合う

た。事故後、住民の間でもキノコに放射性セシウムが濃縮するという情報が伝わり、いつになったらキノコをとれるようになるのだろうかという住民の思いが私たちに伝わってきました。そこで我々が二〇一三年から開始したのが、「キノコマップ」の作成です。これは、住民の方がキノコを採取する際にその一部を長崎大学に提供していただき、あわせてその際に採取した場所を示してもらうことで、採取場所と放射性セシウム濃度が一目でわかるマップの作成を行うものです。実はこの取り組み、最初は住民の間ではあまり好評ではありませんでした。理由は簡単、ほかの人に自分が長い間秘密にしていた「キノコの宝庫」の場所がわかってしまうからです。とはいえ、それでは調査が成り立たないので、住民の方にお願ひして、おおよその採取場所を教えてもらうことでマップングを進めていきました（図左上）。すでに二〇一三年の測定結果は解析が終了し、キノコを食べた場合の

福島県川内村における乾燥キノコ中の放射性セシウム濃度の分布（キノコマップ）



「いつになったらキノコが食べられる？」 里山文化の存在を知り、調査にのりだす

Text by Takamura Noboru



高村 昇 教授

長崎大学原爆後障害医療研究所放射線リスク制御部門教授。長崎大学医学研究科博士課程を修了後、WHO（世界保健機関）の技術アドバイザー等を経て、〇八年より現職。二〇一一年三月より福島県放射線健康リスク管理アドバイザーとなる。ゴッホリ医科大学名誉教授。ペラルシ医科大学名誉教授。研究テーマは福島における放射線健康リスク評価。チェルノブイリにおける臨床疫学研究等。

王維

Wang Wei

多文化社会学部教授。中国瀋陽市生まれ。幼いころから中国琵琶を習い、プロの琵琶演奏者となる。来日後、99年名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程修了。香川大学教授を経て、2014年10月に長崎大学に赴任し現職。主な著書に『日本華僑における伝統の再編とエスニシティ』（風響社）、『素顔の中華街』（洋泉社）など。



異文化の都市長崎で何かをつかみ、世界へ発信

きつかけは正倉院の琵琶 「多文化」は自分の個性

中国の文化が色濃く反映されている長崎。その文化の担い手の中心である華僑の二世、三世が織り成す社会をテーマとする研究者が、昨春秋、長崎大学に赴任しました。王維教授。唐の時代の名詩人と同じ名前です。

「詩人の王維のイメージが強すぎて、会うまでは男性だと勘違いされることが多いですね。所属は多文化社会学部ですが、私自身、まさに多文化な人間です」。

中国・瀋陽では歌舞団で活躍するほどの腕前の琵琶奏者でもあり、来日のきっかけも琵琶でした。

「演奏で古典の楽曲に取り組むこともあるのですが、とても難しいものです。古代の琵琶は今のものとは形も弦の数も違い、その姿は絵でしか残されていません。しかし、日本の正倉院の宝物殿には八世紀に中国から渡来した琵琶があることを知って興味をおぼえたことが日本留学のきっかけの一つでした」。

名古屋の大学、大学院の学費や滞在費も琵琶の演奏活動一本で賄ったとか。民族音楽だけにとどまらず、興味は次第にその背景となる文化の伝承や生活環境に広がっていききました。「琵琶という楽器は、西アジアを起源としながら中国や日本でそれぞれ違う形に発達しました。中国ではメロディ

を奏で、日本ではバチをかき鳴らしながらの語りを中心。どうしてそんな文化変容が起こったのかを調べるうち、福建省の南音という音楽に正倉院の四弦琵琶に似た琵琶が使われ、福建から東南アジア各地にも移住した華僑によって伝承されて来たことを知りました。それならば日本に来た華僑のなかにも伝わっているのではないかと仮説を立て、調査をしているなかで長崎の明清楽や月琴の存在に行き当たったのです」。

中世から四〇〇年以上に渡ってアジアの交易拠点として栄え、日本の華僑の発祥地でもある長崎。現在、新地中華街の住人は華僑と日本人が半々。江戸時代に中国から伝わった明清楽も今では日本人が中心となって継承しています。長い年月を経て中国と日本が自然に混ざりあって暮らす様子を目のあたりにした王維教授は、調査対象を日本の華僑社会そのものに焦点を合わせます。

「歴史上、日本では北米や東南アジアなどの海外の華僑のような集団的移住が見られず、華僑のコミュニティへの溶け込み具合も地域によって違います。ちょうど長崎ランタンフェスティバルが盛り上がり始めたころで、どうして中華街の人たちの小さなお祭りがここまで大きなイベントに膨らんだのかを新地中華街の関係者の方々や、長崎市の行政担当者にも話を聞きました。文化を継承したいという華僑の願いと、新たな観光の魅力を発信したいという長崎市の思惑がうまく結びついたもので、世界でも例がありません。それは長崎の歴史や文化の土壌でしかできないこと。横浜や神戸の中華街の調査も行って日本の華僑研究を専門書にまとめたら、一般向けの新書としても刊行されました」。



かつて長崎ランタンフェスティバルでも3年連続で琵琶演奏のステージを披露したそうです。現在は中国琵琶だけでなく日本の琵琶の「語り」も習得。「中国と日本の2種の琵琶を弾き比べ、違いを感じてもらう一風変わった演奏会を行ったこともありますよ」。

かを新地中華街の関係者の方々や、長崎市の行政担当者にも話を聞きました。文化を継承したいという華僑の願いと、新たな観光の魅力を発信したいという長崎市の思惑がうまく結びついたもので、世界でも例がありません。それは長崎の歴史や文化の土壌でしかできないこと。横浜や神戸の中華街の調査も行って日本の華僑研究を専門書にまとめたら、一般向けの新書としても刊行されました」。

チャイナタウンの調査はその後、さらにスケールを広げ、サンフランシスコやバンクーバー、チェコ、ロンドン、南アフリカでも展開。そして原点ともいえる長崎で昨年研究生活がスタートしたのです。

地域の観光も人間も無限の力を秘めている

前任地の香川大学では、観光と地域資源についてもフィールド調査を行いました。

「全国各地を見て歩きましたが、芝居小屋など昔ながらの財産をうまく活用しながら観光振興の核としている例もありますね。見渡すなかで感じるのは、どんなに苦しい状況に追い込まれてもやればできるということ。これは観光だけの話ではなく、人間も同じ。学生も実は無限の力を秘めています。異文化を資源として発展してきた交流都市長崎で、何かをつかんで世界に発信し、足を踏み出してほしい。ここは、それが可能なまちです」。

民族音楽を入口に、華僑社会、チャイナタウン、中国系新移民、日中音楽、観光と、いくつものテーマを研究の柱に据えて同時進行する独自の研究スタイル。

「でも全部繋がっています。今考えているのは、毎年世界各地で開かれている世界華僑華人研究大会（ISCO）を長崎に誘致することです」。

長崎はそれだけのポテンシャルを持っており、自分にはその使命感があるという王維教授。長崎の個性を客観的に評価し、行動する、新しいタイプの研究者が登場しました。

働くウーマン奮戦記

大学はわたしの仕事場

7

長崎大学で働く女性教職員の活躍ぶりを毎回一人ずつ紹介します。ステキな先輩たちの後ろ姿を見て女子学生も何かを感じて欲しい。そんな願いをこめたコーナーです。

鷹の羽に似た 縞模様

グラバー図譜の美しい魚の絵図を見ながら、山口敦子先生に解説してもらおう好評連載シリーズ。今回はタカノハダイです。

「タカノハダイは、日本では津軽海峡から九州南岸の浅い岩礁域などに広く分布するスズキ目タカノハダイ科の魚です。タカノハの呼び名は、体表の縞が鷹の羽の模様に似ていることに因みます。ダイパーや釣り人におなじみの魚ですね。全長は大きくても四十センチ程度、扁平した体に小さくて分厚い唇、斜めに走る帯状の黄褐色の縞模様が八〜九本あるのが特徴です。種小名を表す *zonatus* とは帯状の斑紋を意味するギリシャ語に由来します。いずれも縞は黄味が強い黄褐色、尾鰭には白い水玉模様があって、カラフルな熱帯魚のようですが、実はこの一見派手な斜めの縞模様、意外にもカモフラージュの役割を果たしているのです」。

え？ こんなに派手なのにカモフラージュになるのでしょうか。「斜めに走る縞模様“斜走帯”は、魚全体の輪郭をぼかし、魚を分断させて見せる効果があります。こうして周囲に溶け込み、気づかないのです」。

「ただけど…？」と、背が青く腹部は銀白色の魚の写真が送られてきました。見てみると、タカノハダイの幼魚でした。タカノハダイは成魚と幼魚の形態や体色が異なることで知られています。魚類では、仔・稚魚期には成魚と著しく異なる形態を持つことは珍しくないので、通常は幼魚期になれば、その模様が違うことはあっても形態を見れば何れの魚であるのかはすぐに見当がつく程度に成長しています。ところが、タカノハダイのように著しく異なる外見を持つ種では、間違っただけで別種として記録されてしまうこともあります。倉場富三郎氏は当時、グラバー図譜に描かれたタカノハダイ幼魚の種名を「未定」と記しました。色も形もタカノハダイとは似ても似つかない魚であったためでしょう。お味の方はどうなのでしょう。「釣り人にはどうにも臭くて食べられない“外道”と言われ、鱗が取りにくい上に夏は特に臭いが強いことから“ヨメナカセ”またその磯臭さから“シヨンペンタレ”と呼ばれることもあり、散々な悪評です。でもちょっと待ってください。冬から春にかけて脂のり、抜群に美味しい時期を迎えることはあまり知られていません。刺身はもちろん、洗いは更に美味しく、煮付けや唐揚げなど、どんな調理法でも問題ありません。是

海の森の木こり？

長崎では、キコリまたはキッコリといった方がわかりやすいかもしれませぬ。タカノハダイは群れを作らずなわばりをもつ魚です。海底の岩や海藻につく小さな無脊椎動物を食べ、単独で行動しています。頭頂部から背部にかけて張り上がった体に、小さくて分厚い唇、まるで筋肉隆々で逞しい“木こり”のようだとはいえませんか？このように木こりに模してこの呼び名がついたという説もあるのですが、新釈魚名考(栄川省造・一九八二)には、「頭部が小さく、吻も細く、キツネの顔に似ているためだろう。狐魚(キッコイオ)の転称だろう」と記されています。キッコイオがキッコ、あるいはキッコリへと変化したというのです。なるほど、確かにキツネのようにも見えます。キツネダイ(秋田)、フトンジマ(静岡)、オカシカウオ(高知という地方名もある一方で、同属のミギマキという魚に対してヒタリマキなどと呼ばれることもあります」。

似ても似つかぬ 幼魚の頃

「いつも研究でお世話になっている石垣島の漁師さんから、以前『先生、見たこともない魚が獲れ

非お試しください。綺麗な白身で肉質は良く、かすかな磯の風味も含めてタカノハダイの味。ただし、活魚であること、内臓の処理は早めにしておくことが秘訣です。長崎県の対馬に伝わる“いりやき”は対馬地鶏の郷土料理ですが、海に近い地域では地鶏に代わってタカノハダイやメジナなど煮崩れしない魚が使われます。また、高知では獲れたてのカツオを船上で捌いて炙り炙り、塩を振りかけた“塩だたき”が有名ですが、タカノハダイを使うこともあるといえます。磯の臭みをとって魚の味を十分に引き出す食べ方なのですね。流通網が発達した今でも、鮮度が重要なカギとなる魚です。群れを作らないためにまとまって漁獲されることがなく、流通しにくい魚ではありますが、逆に言えば、海に近い場所では味わえない特別な魚でもあるのです。鮮度が決め手となると、獲れたてを食べられる地の利を生かさない手はないですね。



上が成魚のタカノハダイ。右は幼魚(描いたのは中村三郎)。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たちー有明海の豊かさと危機」(東海大学出版)など。

Glover Atlas

タカノハダイ

Goniistius zonatus

画家 小田紫星

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern
& Western Japan

長崎大学は様々な領域、分野で発展し続けています。今回は、施設整備事業にスポットをあて、「新生! 再生! 新しい長崎大学へ」と題する特集を組みました。単なる施設や設備の紹介ではなく、安心して勉学や研究に励むことのできる環境づくりに、いかに取り組んでいるかについて、文教、坂本キャンパスの事例のみならず、学外へも広げて紹介しております。在学生はもちろん、受験生と保護者の方にも長崎大学がさらに魅力的に映るものと思います。

「長崎大学のいま」は、まもなく創立160年を迎える「医学部」です。「大学の研究最前線」と併せて、受験生の皆様は必見です。久々の「大学はわたしの職場」、「グラバー図譜」もお楽しみください。

(原田哲夫)

[編集・発行]

Choho企画編集会議

編集長

原田 哲夫 広報戦略本部副本部長 工学研究科 教授

副編集長

池田 幸恵 多文化社会学部 准教授

編集委員

- 堀内 伊吹 副学長、教育学部 教授
吉田 高文 経済学部 教授
相楽 隆正 工学研究科 教授
松下 吉樹 水産・環境科学総合研究科 教授
小林 信之 医歯薬学総合研究科 教授
堀尾 政博 熱帯医学研究所 教授
佐々木 均 病院 教授
延田 恵 やってみゅーでスクマネージャー
深尾 典男 副学長、広報戦略本部副本部長 教授
石田 亮二 広報戦略本部 主査
高藏 祐亮 広報戦略本部 主任
井上 泉 広報戦略本部
田村 匠平 広報戦略本部

編集 川良 真理
デザイン 三浦 秀樹
企画編集アドバイザー 浅野 眞

TEL.095-819-2007
FAX.095-819-2156

(E-mail) www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日]2015年4月1日

プレゼントクイズ

長崎大学 通 クイズ

長崎大学に関する、知る人ぞ知る新事実が続々登場するクイズです。さあ、あなたはどれが本当だと思いますか?

医学部の前身である長崎医学専門学校時代に、ある著名な文化人が精神科の教授として赴任しています。それは誰?

ヒント:「写真で見る医学部150年の変遷」に載っています。

斎藤茂吉



1

森鷗外



2

渡辺淳一



3

解答は挟み込みのハガキにご記入のうえ、郵送してください(アンケート内容もしっかりご記入ください)。正解者のなかから抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!

前号の答え

Q 文教キャンパスの教育学部棟と環境科学部棟の間にある中庭に、昨秋、あるものが設置されました。それは何?

A ② 女性の銅像

この銅像「風の中で」は、教育学部美術科の佐藤敬助 教授の作品です。「キャンパスのなかという特殊性を考えました。そこで、研究者が研究テーマを掘り下げるなかで、希望を見つけて興奮して一歩前へ踏み出す瞬間をイメージし、造形しました」と佐藤先生。



今回のプレゼント

五島列島の北の端、小値賀島。日本の原風景が残る美しい村として島全体が西海国立公園に指定されています。そんな小値賀島で育った落花生をたっぷり使った「おぢか島 落花生とうふ」は、第46回長崎県特産品新作展の農産加工品・酒・飲料部門において優秀賞を受賞しました。落花生(殻つきとむき身の2種)もキュートなデザインで手土産としても人気です。今回は正解者のなかから抽選で5名に、この「おぢか島の落花生セット」をプレゼント。



プレーンで優しい味の落花生とうふは、ごまだれ、きなこ、黒蜜もセットされており、スイーツとしてもいただけます。詰め合わせ3,900円相当。

提供/小値賀町担い手公社 TEL.0959-53-3344

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/n_bussan/

*「長崎よかもんショップ・四谷」好評営業中(長崎県東京産業支援センター1F)

平成27年度 長崎大学公開講座

4月~9月

平成27年度市民講座

核兵器のない世界を目指して

平成27年4月1日(水)~平成28年3月31日(土)13:30~15:30
会場/長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ
講師/鈴木達治郎(RECNAセンター長)、広瀬訓、中村桂子、ほか5名
定員/100名 受講料/無料
問/核兵器廃絶長崎連絡協議会 TEL.095-819-2252

第8回 平戸と長崎大学で育てる地域医療 平戸市生涯学習連携講座

平成27年5月9日(土)15:30~18:30
会場/平戸文化センター
講師/へき地病院再生支援・教育機構教授 調漸
定員/500名 受講料/無料
問/へき地病院再生支援・教育機構 平戸臨床拠点 TEL.0950-20-3006

第5回附属薬用植物園における薬用植物

~薬用植物の利用と健康生活~

平成27年5月9日(土)10:00~12:00
会場/薬学部講義室ならびに薬用植物園
講師/山田耕史(医歯薬学総合研究科准教授)
定員/15名 受講料/無料
問/医歯薬学総合研究科協力課企画調査係 TEL.095-819-7195

被爆者健康講話

平成27年6月18日~平成28年3月17日(第3木曜) 14:00~15:00
会場/長崎原爆死没者追悼平和祈念館、五島市福江総合福祉保健センター
講師/高村昇、林田直美、折田真紀子、東美穂、武田沙江加、松本衣未、ほか4名
定員/40名 受講料/無料
問/長崎原爆死没者追悼平和祈念館 健康講話係 TEL.095-814-0055

第62回日本小児保健協会学術集会 市民公開シンポジウム よりよく学び よりよく育つために ~障がいのある子どもたちの就学を考える~

平成27年6月20日(土)14:00~17:00
会場/長崎ブリックホール
講師/森内浩幸(小児科教授)、ほか8名予定
定員/300名 受講料/無料
問/医学部小児科 TEL.095-819-7298

被爆70年を考える現代美術

平成27年7月11日(土)~8月10日(月)14:00~15:30
会場/産学官連携戦略本部研修室(文教キャンパス)
講師/井川惺亮(長崎大学名誉教授)、新田照夫(生涯教育室准教授)、ほか7名
定員/20~30名 受講料/無料
問/産学官連携戦略本部 生涯教育室 TEL.095-819-2233

長崎大学公開講座 遺伝学講座13 遺伝について楽しく学ぼう

平成27年8月18日(火)13:30~16:00
会場/医学部保健学科体育館
講師/宮原春美(医学部保健学科・教授)、佐々木規子、森藤香奈子、松本正
定員/30名 受講料/無料
問/医歯薬学総合研究科協力課企画調査係 TEL.095-819-7195

長崎県での新生児聴覚スクリーニングの成り立ち・現状とその意義

平成27年8月30日(日)13:00~15:00
会場/医学部 良順会館
講師/森内浩幸(小児科教授)、ほか3名予定
定員/250名 受講料/無料
問/病院耳鼻咽喉科 TEL.095-819-7349

長崎県がん診療連携拠点病院 県民公開講座 がんについてよく考えよう

平成27年9月19日(土)13:00~16:00
会場/長崎ブリックホール 国際会議場
講師/未定
定員/400~500名 受講料/無料
問/がん診療センター TEL.095-819-7779

- 講座内容・申込方法などの詳細は直接お問い合わせください。
●開催時期・時間などは都合により一部変更することがありますので、ご了承ください。
●講座内容・申込方法の詳細は、長崎大学公開講座ホームページでもご覧になれます。http://www.erc.nagasaki-u.ac.jp/
●公開講座全般に関するお問合せ先 長崎大学 産学官連携戦略本部 人材育成部門 生涯教育室 TEL.095-819-2233